

## 命の大切さ

四年 伊村奏雲

うちには二匹の猫がいます。大切な家族の一員です。名前はギンガとコナンです。

ギンガは六才になるオス猫で、皆ギンちゃんと言っています。ギンちゃんは人なつこくて、ぼくが勉強していると机にのってきてじゃまをしてくれます。そのうちいつしよに遊び始めてしまうので宿題にとても時間がかかってしまうことがよくあります。それでもぼくはギンちゃんが大好きなので、これからもたくさん遊んであげたいと思います。

コナンともよく遊びます。コナンもオス猫で七才です。よく鳴く猫で、時々ちよつとうるさい時もあります。背中をなでるととてもよるこびます。気持ちよさそうに目を閉じている顔がとてもかわいいです。

コナンには母猫がいました。昨年春十一才で死んでしまいました。名前はももです。すごく悲しかったです。ももちゃんは、病気でした。鳴いても声がでなくて、食べ物も少ししか食べられず、とてもかわいそうでした。それでも家族皆で声をかけ続けました。しかし、だんだん元気がなくなってきた。最後はぼくのおじいちゃんになでられながら静かに息をひきとりました。

最近ニュースで犬や猫のさつしよ分がへっていると聞いていました。それでも、昨年のさつしよ分は、犬四千五十九頭、猫一万九千七百五頭、合計二万三千七百六十四頭にもおよびます。さつしよ分をする理由は、捨てられたペットや野良犬野良猫が多すぎるからです。迷子や飼い主の見つからないペットは、年間十萬頭にも及ぶといわれています。各自自治体の保健所や保護センターに収容されますが、スペースにも限界があります。引き取り手がなく、規定の保管日数がすぎた場合は、残念ながらさつしよ分されてしまいます。

ぼくたちが最低げん出来ることは、自分が飼っている動物を捨てたりしない、なるべく出来たら飼い主のいない犬猫を引き取ったり、里親になってあげることだと思います。一匹でも多く、大好きな家族の元で動物たちが暮らせるようになってほしいです。

そして、今ぼくができることは、ギンガとコナンを大切にすることです。ももが死んでしまったことを通じて、生き物を飼うということは、一つの命に向き合いせきにんを持つということを学びました。これからも大事な家族の一員であるギンガとコナンとたくさんいっしよに遊んで楽しい思い出を作ってあげたいと思います。命がつきるその最後まで、そばでよりそってあげたいです。